

## 永島家住宅の歴史年表

西暦	元号	藩主	永島家住宅のできごと	川越・全国のできごと	
1767	明和4年	松平朝矩		松平朝矩(松平大和守家) 前橋藩から川越藩に転封	
1787	天明7年	直恒		・松平定信が老中となる ・寛政の改革始まる	
1792	寛政4年			国指定・大沢家住宅できる	
1796	寛政8年		堤愛郷生まれる(伊勢国員弁郡)		
1807	文化4年		『松平大和守役付』に勾坂鹿平(物頭、高300石)とある		
1819	文政2年	斉典	堤愛郷、川越藩医堤玄笙の養子となる		
1827	文政10年			藩校「講学所」が開かれる	
1833	天保4年		『巳給帳』に堤愛郷(350石 定江戸)とある	・天保の飢饉(~37)	
1840	天保11年			三方領地替が発令される	
1841	天保12年			大和守家2万石加増 ・天保の改革始まる	
1846	弘化3年			川越城二の丸御殿炎上する	
1847	弘化4年			幕府が忍・川越藩などに房総、相模側の警備を命じる	
1852	嘉永5年		典則	『子給帳』に三野半兵衛(相州、高250石) 堤愛郷(定江戸、高300石) ※愛郷梓 玄昌とある	
1853	嘉永6年	直侯		・ペリー浦賀来航 川越藩品川台場の防備にあたる	
1854	安政元年			・日米和親条約を結ぶ	
1860	万延元年			・桜田門外の変	
1861	文久元年	直克	現存する屋敷神の祈禱札が見つかる	勤王の志士西川練造、江戸伝馬町で獄死	
1866	慶応2年	松平(松井)康英	この頃、石原昌迪が在住カ	松平直克が前橋に移り、松平康英(松平周防守家)が榎倉藩から川越藩に転封	
1867	慶応3年				藩校「長善館」開く
1868	明治元年	康載		・戊辰戦争(~69) ・五箇条の誓文	
1869	明治2年			・版籍奉還	
1871	明治4年			・廢藩置県 川越県設立(後に入間県)	
1873	明治6年			地租改正。入間県から熊谷県に	
1876	明治9年			熊谷県から埼玉県に	
1881	明治14年			迅速図に石原家(現永島家住宅)が描かれる	・国会開設
1888	明治21年				・市町村制施行により川越町に
1890	明治23年			石原久(石原昌迪の子カ)の在住が知られる	・府県制 ・郡制公布 ・第1回帝国議会
1893	明治26年				川越大火(1,300余戸焼失)
1894	明治27年			石原久、現東大の副手、助手となる	・日清戦争
1895	明治28年			川越・国分寺間に川越鉄道開通	
1896	明治29年		石原久、欧米へ留学	川越貯蓄銀行設立	
1900	明治33年		石原久、ドイツ留学中に現東大助教になる	川越商業会議所が設立許可	
1904	明治37年			・日露戦争	
1917	大正6年		永島家が石原家を購入		
1922	大正11年			県内で最初に市制施行。川越市に	
2006	平成18年		3月27日付で「永島家住宅(旧武家屋敷)」として市指定史跡に指定される		
2010	平成22年		~平成28年にかけて、永島氏より、土地・建物が川越市に寄贈される		



## 利用案内

所在地 川越市三久保町5-3  
 公開日 毎週土曜日  
 (12月29日~1月3日を除く)  
 公開時間 午前9時~午後4時  
 特別公開日 春まつり・川越まつりの期間  
 交通案内

- 東武東上線・JR川越線川越駅下車  
西武新宿線本川越駅下車
  - 東武バス神明町行き「仲町」下車徒歩8分  
東武バス埼玉医大・上尾行き「松江町2丁目」  
下車徒歩5分
  - 川越駅・徒歩25分 本川越駅・徒歩15分
- ★駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

## 問い合わせ先

川越市教育委員会 文化財保護課  
 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1  
 ☎ (049) 224-6097 (直通)  
 Eメール bunkazai★city.kawagoe.lg.jp

## 市指定史跡

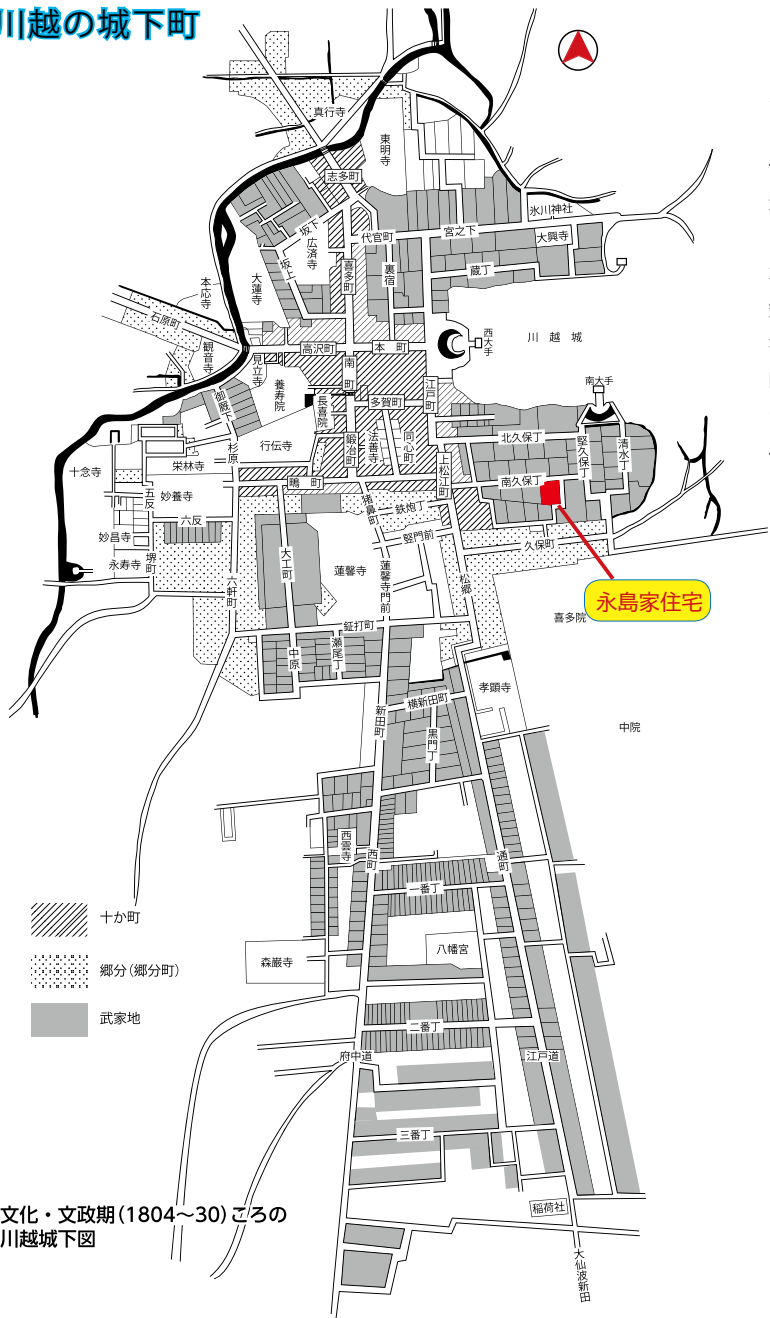
# 永島家住宅

(旧武家屋敷)



川越市教育委員会

# 川越の城下町



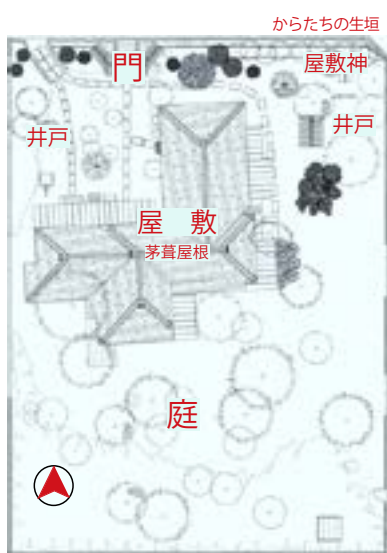
文化・文政期(1804~30)ごろの川越城下町

「永島家住宅(旧武家屋敷)」は、江戸時代後期に建てられた武家住宅です。埼玉県内には、江戸時代、川越藩・忍藩(現・行田市)・岩槻藩(現・さいたま市)の三つの城下町があり、たくさんの武家屋敷がありました。今ではほとんどが失われ、ときに近い状態で残っているのは永島家住宅だけとなっています。

城下町では、厳格に武士と町人の居住する区域が分けられました。武家地は、家老などの上級家臣の武士だけが川越城内に屋敷が与えられ、それに次ぐ上級家臣は、西大手門外の北側から追手曲輪の北側堀外と南大手門の南側に屋敷を構えていました。その他の中級家臣または下級家臣の屋敷は、城からやや離れた川越街道沿いを中心に配置されました。

町人地は、十ヶ町四門前といい商人町である上五ヶ町(江戸町・本町・高沢町・喜多町・南町)職人町である下五ヶ町(多賀町・鍛冶町・志義町・志多町・上松江町)と四つの門前町(養寿院門前・行伝寺門前・妙養寺門前・蓮馨寺門前)で構成されました。また、町の周辺に郷分町といい、町場化した村がありました。このような城下町の町割は、慶安年間(1648~52)に、当時の城主松平信綱によって整備され、現在に引き継がれています。

## 現在の敷地



万延二年(一八六二)敷地内の屋敷神に武運長久を願って奉納された祈禱札

敷地面積 1184.62㎡  
のべ床面積 177.94㎡

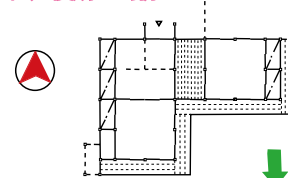
永島家住宅は、川越城南大手門近くの上中級武士の武家地に当たる南久保町の一角にあります。江戸時代後期の松平大和守家時代に、永島家住宅に住んでいた藩士として

- 勾坂鹿平(さきさかかへい) 【禄高 300石、物頭】
- 堤愛郷(つつみあいごう) 【禄高 250石~350石、御典医】
- 三野半兵衛(さんのはんべい) 【禄高 250石、鍵奉行】

また幕末の松平周防守家時代には、石原昌迪(いしはらまさみち)【禄高 100石、側医師】が住んでいたことがわかっています。

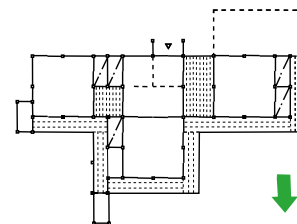
## 永島家の変遷

江戸後期 当初



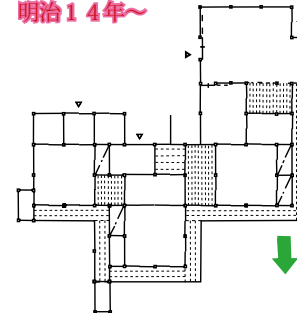
L字型の平面。玄関は道路に面する北側ある。玄関の南に次の間、庭に面した座敷と続く。東側には板敷で、のちに切腹の間と呼ばれた部屋がある。その東には八畳の茶の間があり、押入れが設けられている。座敷の南と茶の間の東・南に溝縁がつく。台所となる土間は茶の間の北にあったと思われる。

幕末~明治14年~



西側にのちに下男部屋と呼ばれる部屋が増築され、同時に次の間との間に板敷きの通路が設けられたと考えられる。

明治14年~



以前土間だったと思われる茶の間の北側に新たに仏間・三帖の間・板の間が設けられる。また、玄関部分が改造され、下男部屋に専用の玄関が設けられた。

## 現在の間取り

